

4-2 区内自転車駐車場利用者アンケート調査

(1) 調査概要

1) 調査の目的

本調査は、区内の自転車駐車場利用者を対象に、「利用者」視点での自転車駐車場の利用実態・利用意向及び自転車利用環境に関する課題やニーズを把握することを目的として実施しました。

2) 調査の対象

区内の駐輪場利用者を対象としました。

3) 調査の方法

表 4-4 調査方法(区内自転車駐車場利用者アンケート調査)

対象	調査方法	回答方法
区内自転車駐車場利用者	調査対象駐輪場の自転車のハンドルに、QRコード付きの調査依頼状を配布	WEB 回答方式（無記名）



図 4-53 調査依頼状配布の様子(区内自転車駐車場利用者アンケート)

4) 調査期間

① 調査依頼状配布日

令和6年9月中旬～令和6年9月下旬

② 回答受付日

令和6年9月中旬～令和6年10月中旬

5) 調査項目

区内自転車駐車場利用者アンケート調査の項目を以下に示します。

表 4-5 調査項目（区内自転車駐車場利用者アンケート調査）

項目	設問
基礎情報	性別、年齢、居住地、職業、 駐輪した自転車の種類、電動アシストの有無
駐輪場利用 実態	利用した場所、駐輪場の利用形態
	駐輪場の利用日、駐輪場の利用時間帯、駐輪場の利用時間
	駐輪場の利用頻度、駐輪場の利用目的
	利用後の移動手段、利用後の移動時間
	駐輪後に（乗車／降車）した駅、駐輪後の駅までの徒歩時間
駐輪場利用 に関する意向	駐輪場利用時の出発地／最終目的地
	駐輪場の選択理由
	駐輪場の利用満足度、駐輪場の改善点
利用理由	放置駐輪の有無、放置駐輪の理由
利用理由	自転車の利用理由
ニーズ	自転車利用環境ニーズ

(2) 調査結果

区内自転車駐車場利用者アンケート調査の回収票数・回収率は以下のとおりです。

表 4-6 実施結果(区内自転車駐車場利用者アンケート調査)

対象	実施結果
区内自転車駐車場利用者	755票（回収率15%） / 5,113票

なお、グラフに関する注意点は以下のとおりです。

注 1 : 回答の比率（%）は四捨五入のため、回答の比率の合計が 100%に満たない、または上回ることがある。また、グラフ中の（ ）内の数字は、回答者の数を表す。

1) 回答者の基礎情報

① 性別

回答者は、女性が54%、男性が43%を占めています。

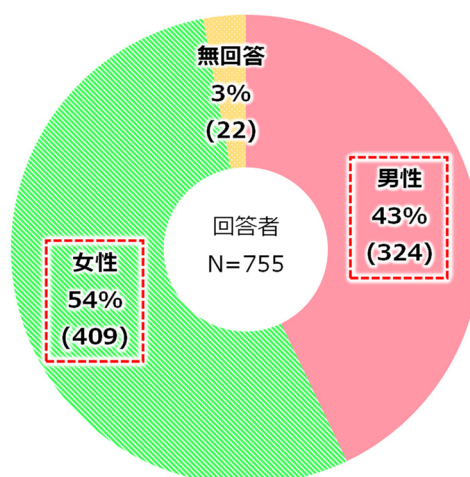


図 4-54 性別＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

② 年齢

年齢では50代が最も多く、30～50代で71%を占めています。

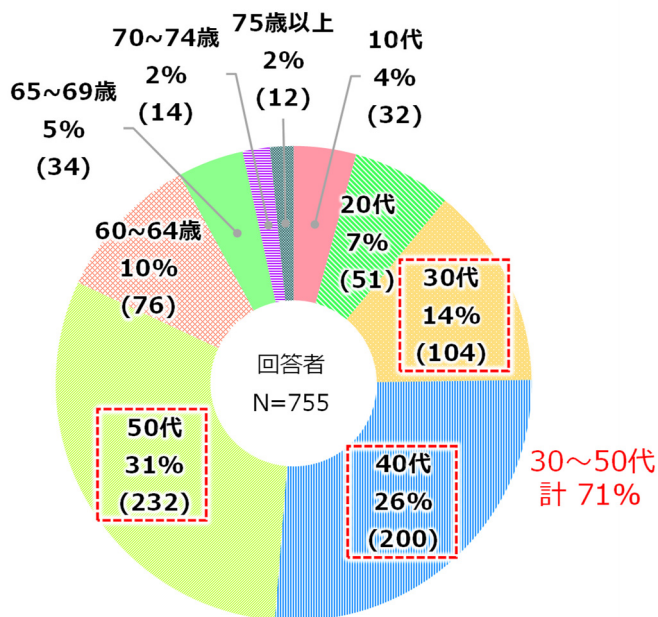


図 4-55 年齢＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

③ 居住地

居住地は台東区が78%を占めています。

郵便番号をご記入ください。

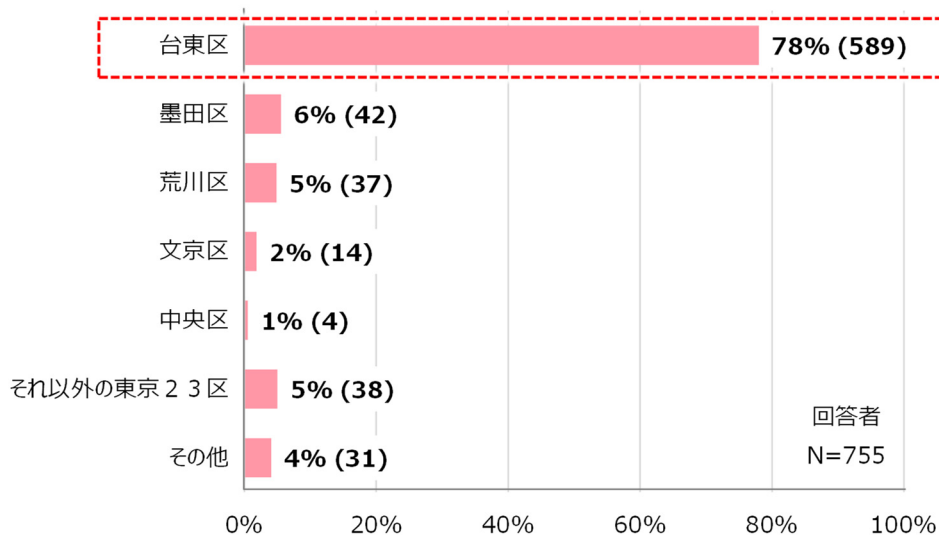


図 4-56 居住地＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

④ 職業

職業は会社員・公務員が71%を占めています。

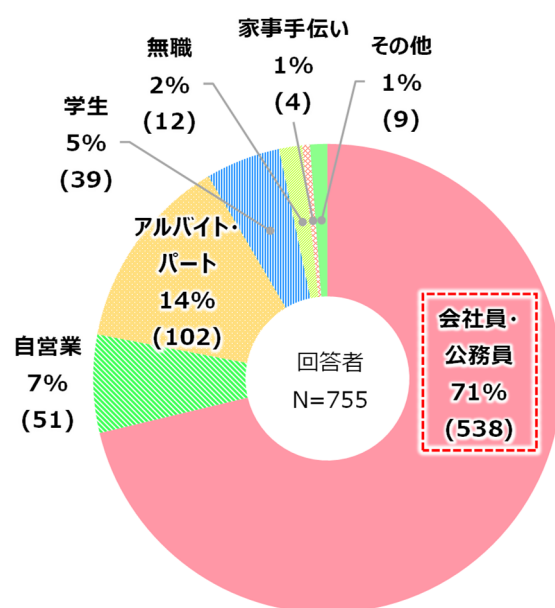


図 4-57 職業＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

台東区内の住所は、橋場、今戸、浅草の順に多く、上位3地区で37%を占めています。

郵便番号をご記入ください。

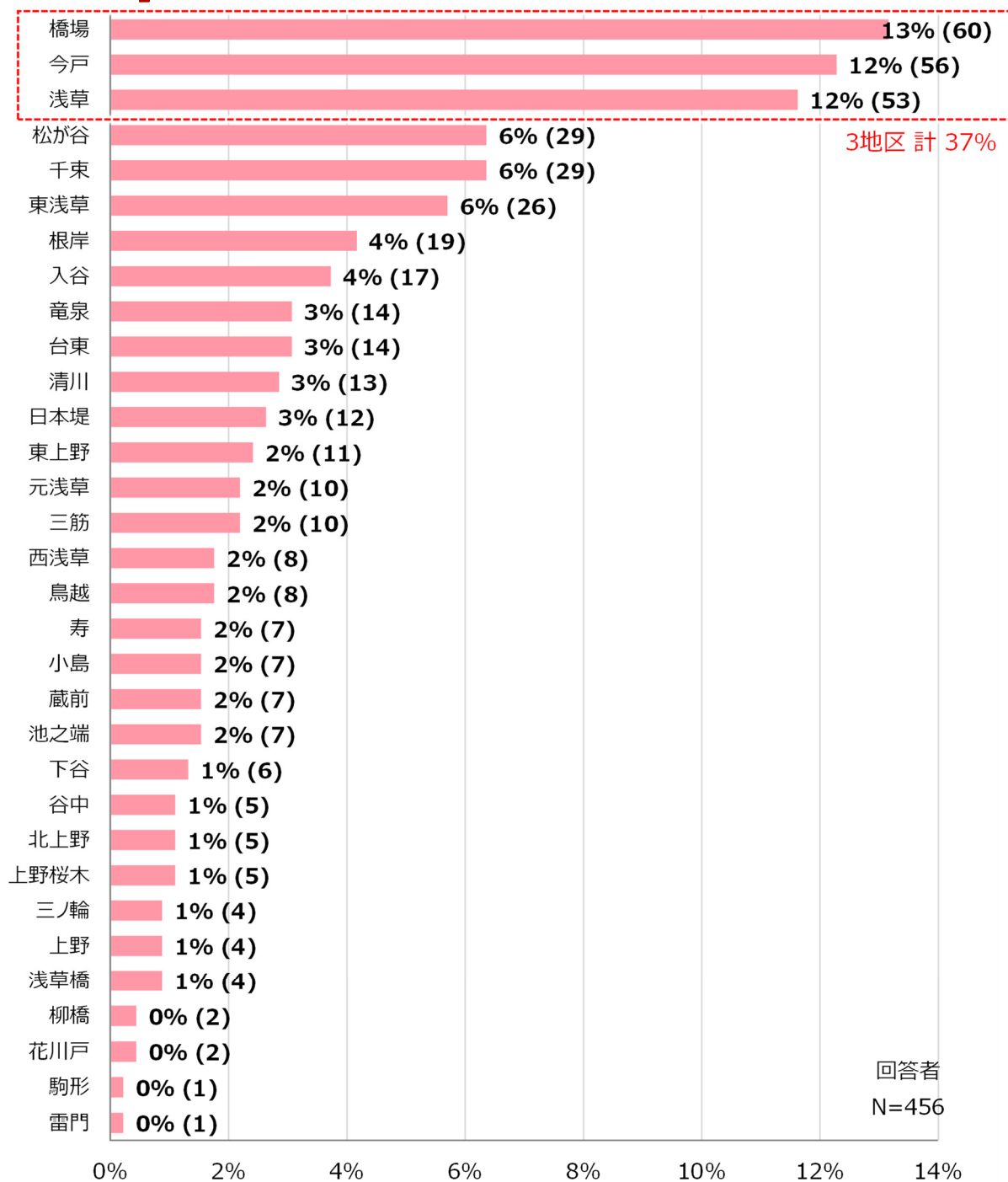


図 4-58 台東区内の居住地<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

⑤ 駐輪した自転車の種類

駐輪した自転車の種類は、シティサイクル（ママチャリなど）が最も多く、68%を占めています。
電動アシストの有無でみると、電動アシスト付きが30%を占めています。

■ 今回、駐輪した自転車の種類を教えてください。

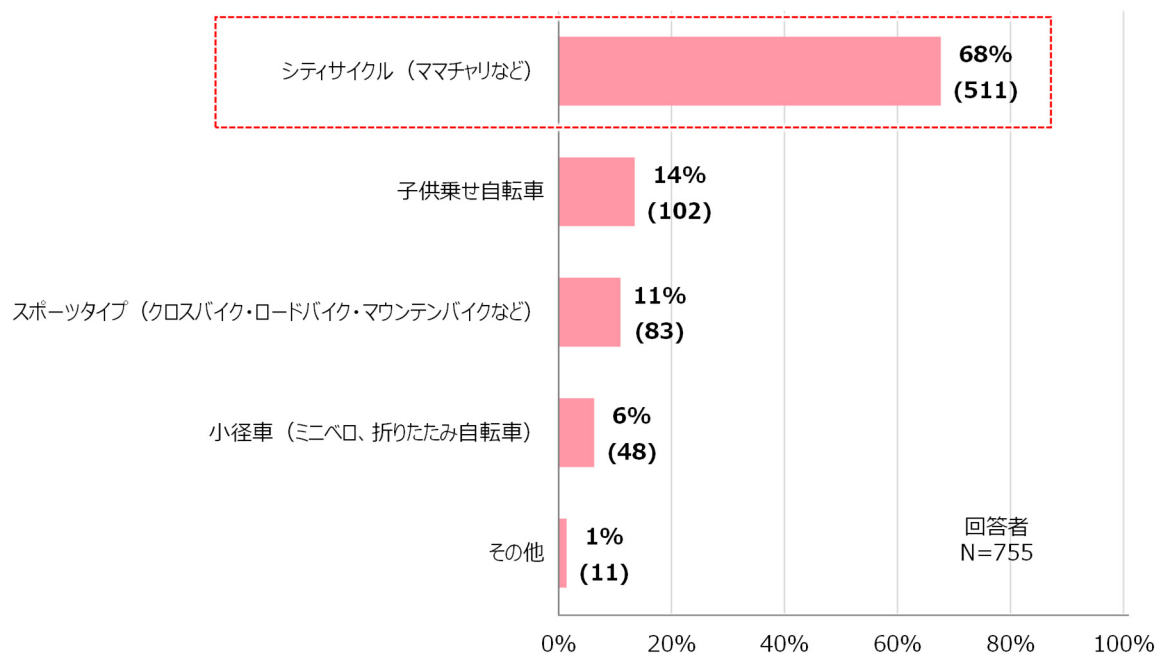


図 4-59 駐輪した自転車の種類＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

■ 電動アシストは付いていますか。

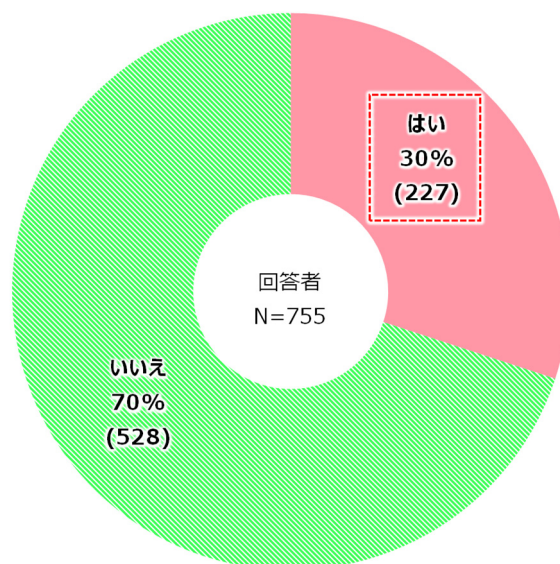


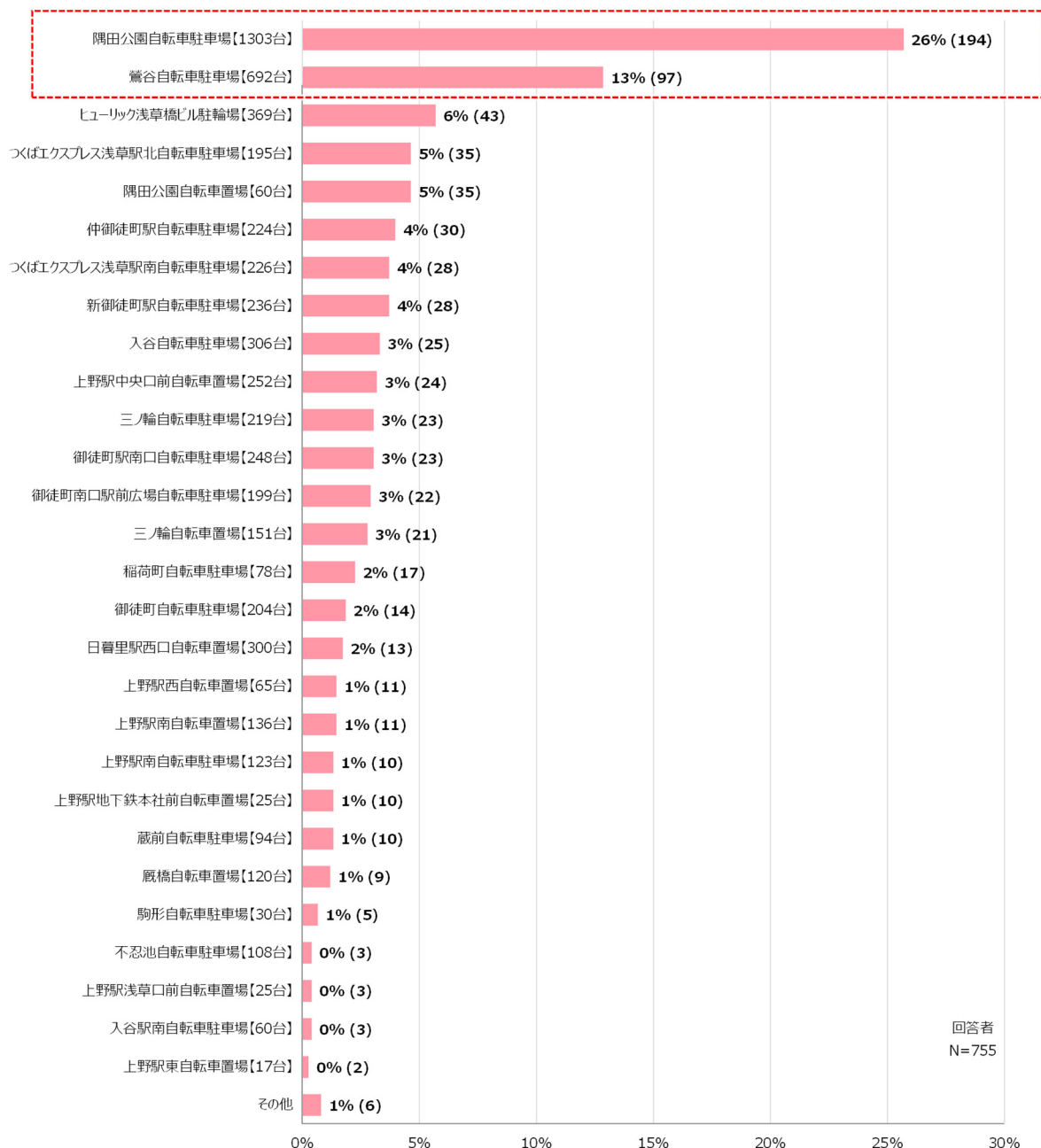
図 4-60 電動アシストの有無＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

2) 駐輪場の利用実態

① 駐輪した場所

利用した駐輪場は、隅田公園自転車駐車場が最も多く、全体の26%を占めています。次に、鶯谷自転車駐車場が13%を占めています。

■ どの自転車駐車場（以下「駐輪場」という）に駐輪しましたか。



注：駐輪場名の横の【】内の数字は、参考情報として令和5年度の利用台数（年度末時点）

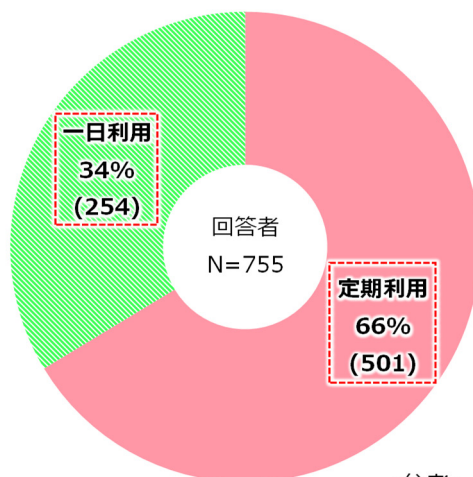
（出典：令和6年度版台東区行政資料集）を記載

図 4-61 駐輪した場所＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

② 駐輪場の利用形態

駐輪場の利用方法は、定期利用が66%、一日利用が34%でした。

■ 駐輪場の利用方法について教えてください。



<参考>

令和5年度利用台数

定期利用（月極・年度計） 4,371台（72%）

一日利用 1,735台（28%）

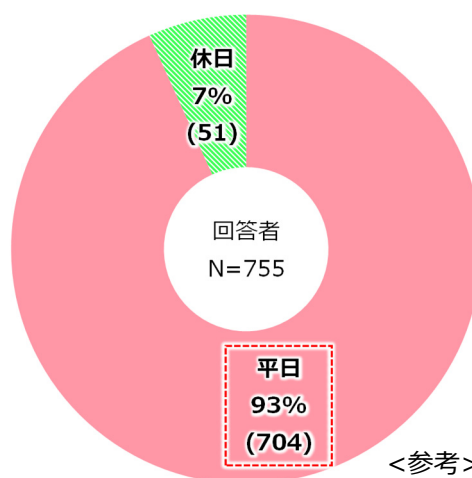
（出典：令和6年度版台東区行政資料集）

図 4-62 駐輪場の利用形態<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

③ 駐輪場の利用日

駐輪場の利用日は、平日が93%を占めています。

■ いつ駐輪場を利用しましたか。



<参考>

平日での調査依頼状配布数 3,597票（70%）

休日での調査依頼状配布数 1,516票（30%）

（ただし、平日・休日で配布した調査依頼状により、それぞれ平日・休日と回答するとは限らない）

図 4-63 駐輪場の利用日<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

④ 駐輪場の利用時間帯

駐輪場の利用時間帯は、8時台が最も多く、8時台以前の時間帯で70%を占めています。

■ 駐輪した時間帯を教えてください。

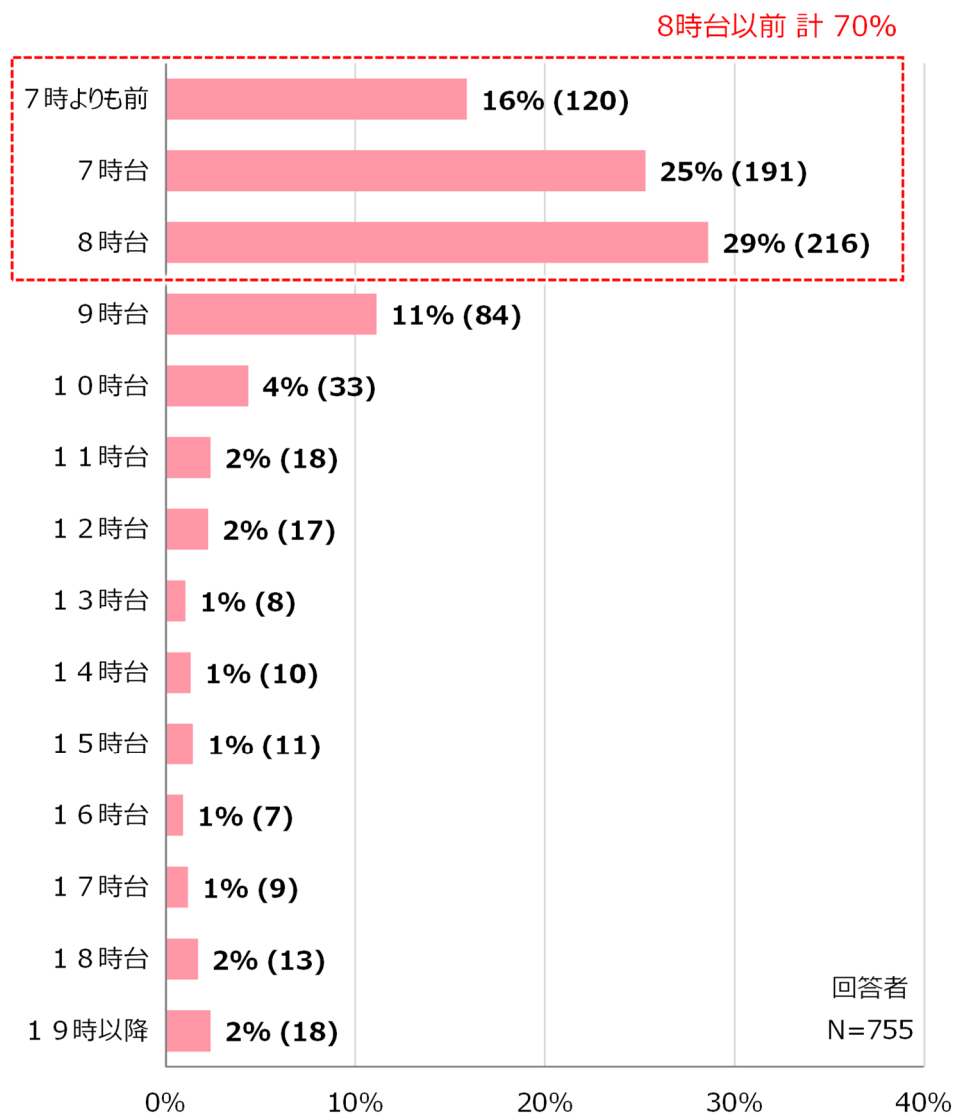


図 4-64 駐輪場の利用時間帯＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑤ 駐輪場の利用時間

駐輪場の利用時間は、9時間以上が最も多く、7時間以上の計では87%を占めています。

■ 駐輪時間を教えてください。

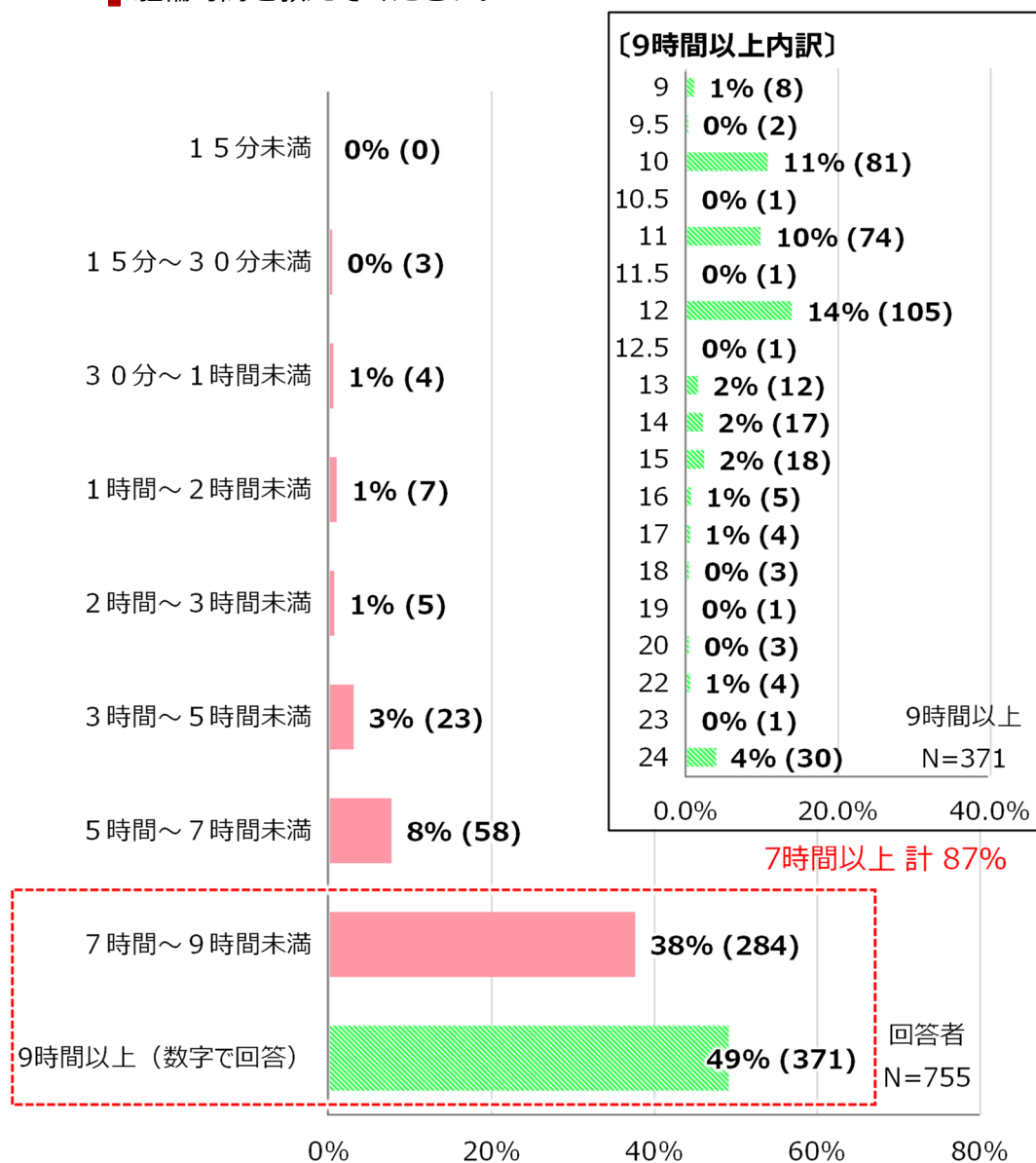
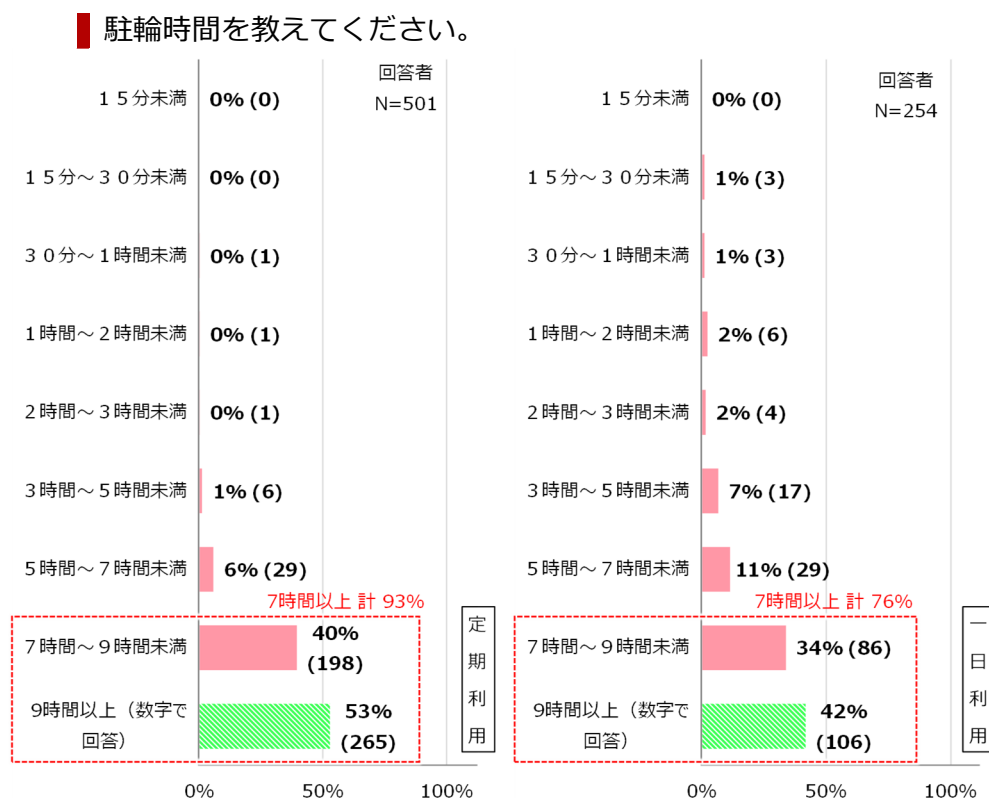
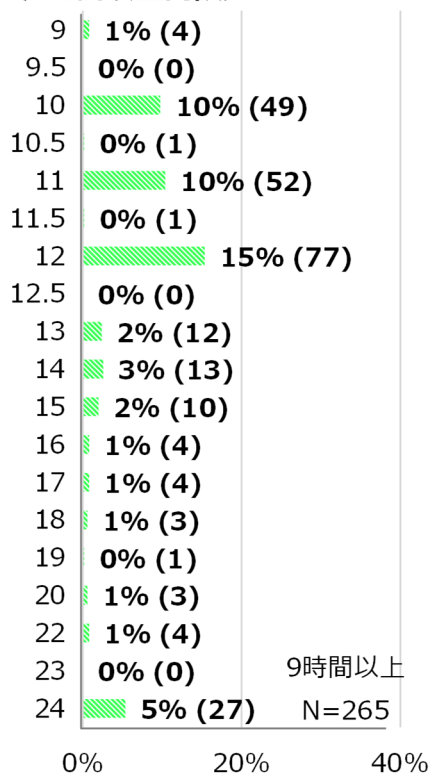


図 4-65 駐輪場の利用時間＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

駐輪場の利用時間は、7時間未満のすべての選択肢で一日利用の回答の比率が高く、7時間以上の比率は、定期利用の93%に対し、一日利用は76%でした。



〔9時間以上内訳〕



〔9時間以上内訳〕

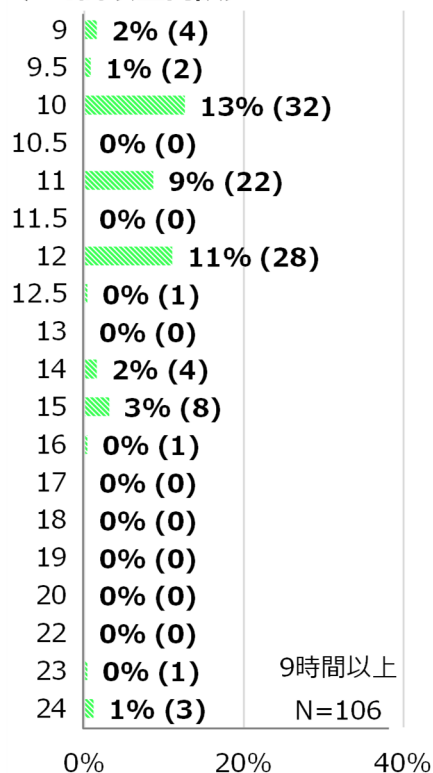


図 4-66 駐輪場の利用時間(左:定期利用、右:一日利用)
 <区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

⑥ 駐輪場の利用頻度

駐輪場の利用頻度は、週5日以上が最も多く、65%を占めています。

■ その駐輪場の利用頻度を教えてください。

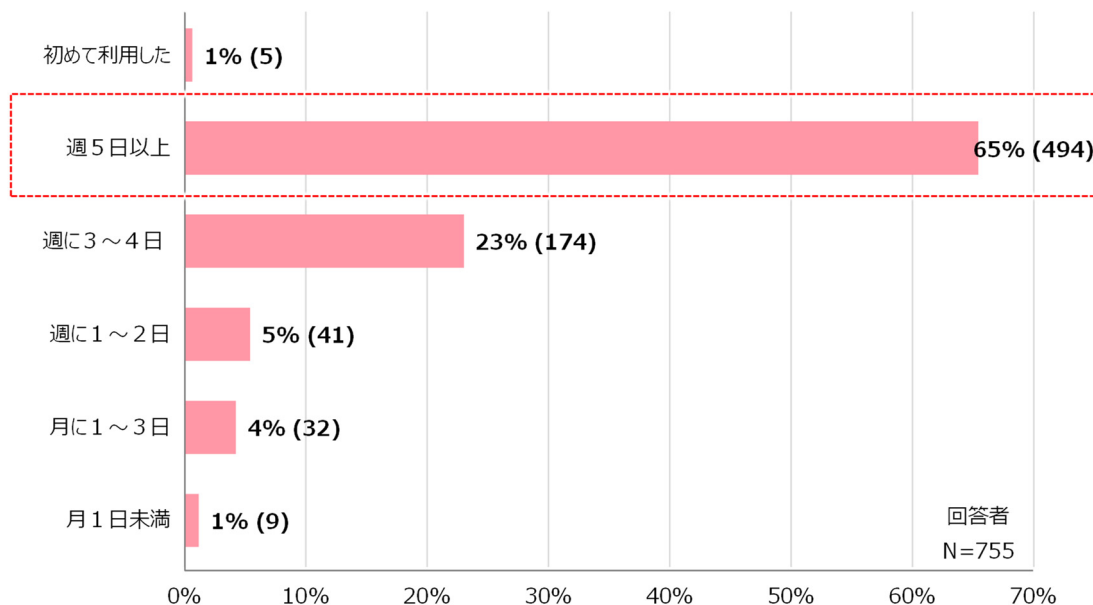


図 4-67 駐輪場の利用頻度＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑦ 駐輪場の利用目的

駐輪場の利用目的は、通勤のための最も多く、77%を占めています。

■ 駐輪場の主な利用目的を教えてください。

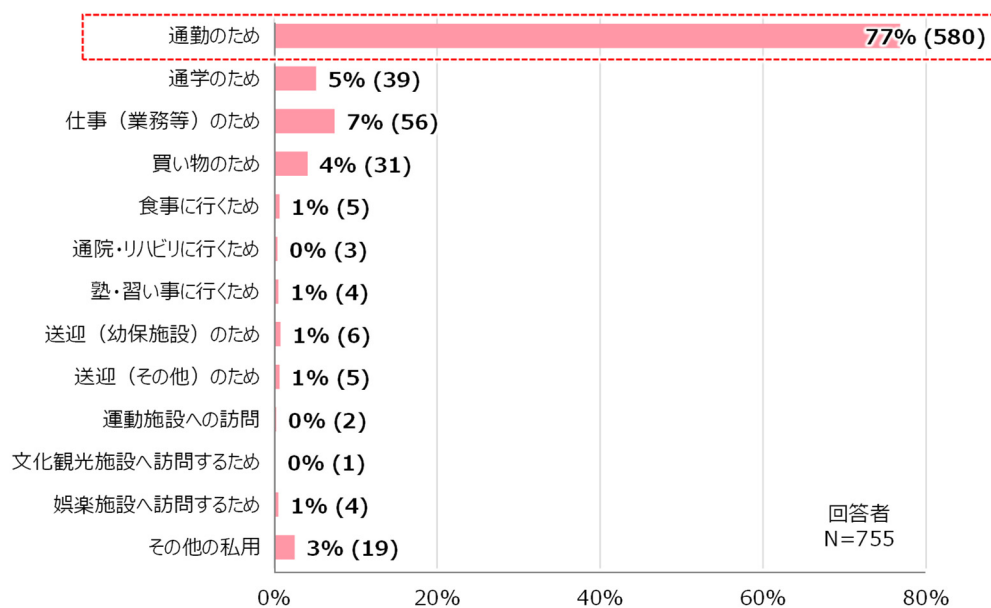


図 4-68 駐輪場の利用目的＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑧ 利用後の移動手段

駐輪後の移動手段は、電車が最も多く、76%を占めています。

■ 駐輪後、最終目的地までは主に何で移動しましたか。

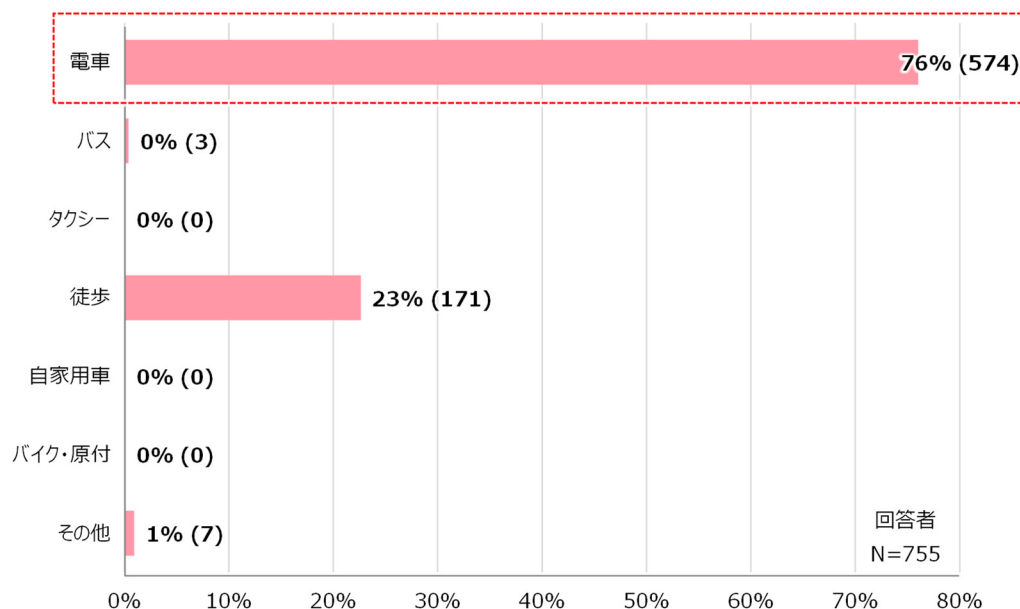


図 4-69 利用後の移動手段＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑨ 利用後の移動時間

駐輪後の移動時間は、「～10分」と「～30分」が最も多く、ともに23%を占めています。

■ 駐輪後から最終目的地までの移動時間を教えてください。

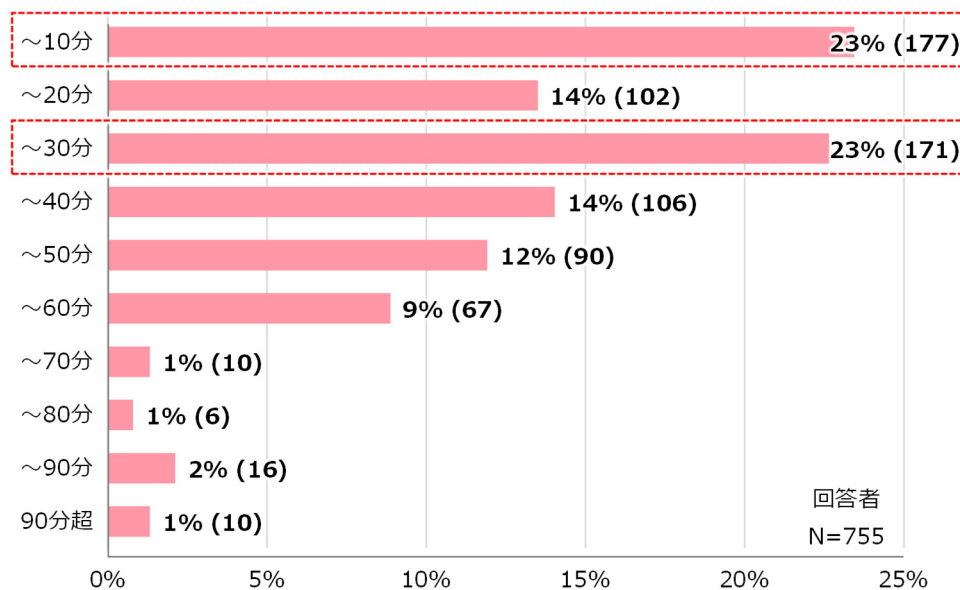


図 4-70 利用後の移動時間＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑩ 駐輪後に乗車した駅

駐輪後に乗車した駅は、浅草駅が最も多く（236件）、41%を占めています。

■（電車を利用した方）乗車した駅を教えてください。

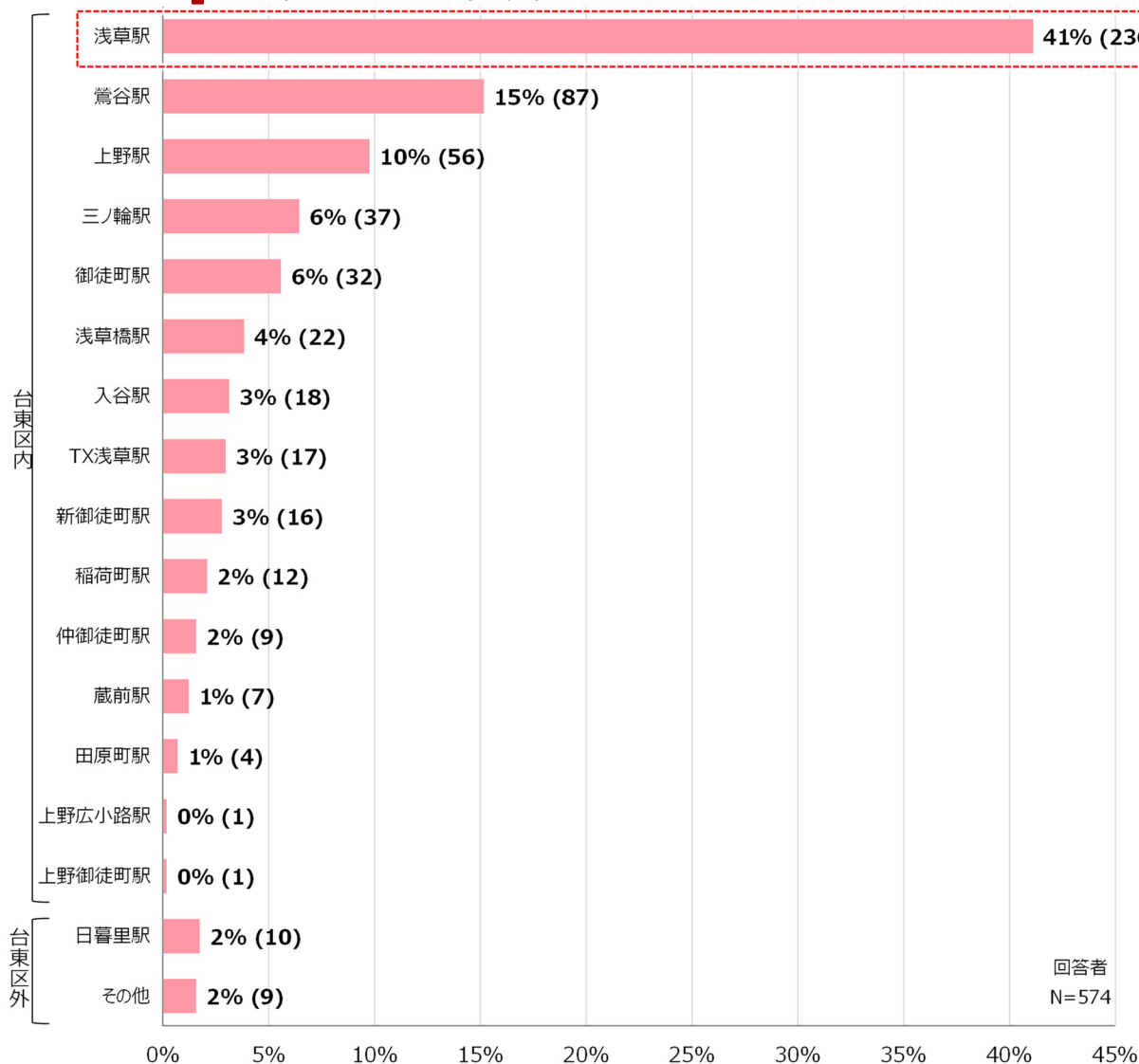


図 4-71 駐輪後に乗車した駅＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑪ 駐輪後に降車した駅

駐輪後に降車した駅は、東京駅が最も多く（18件）、3%を占めています。

（電車を利用した方）降車した駅を教えてください。

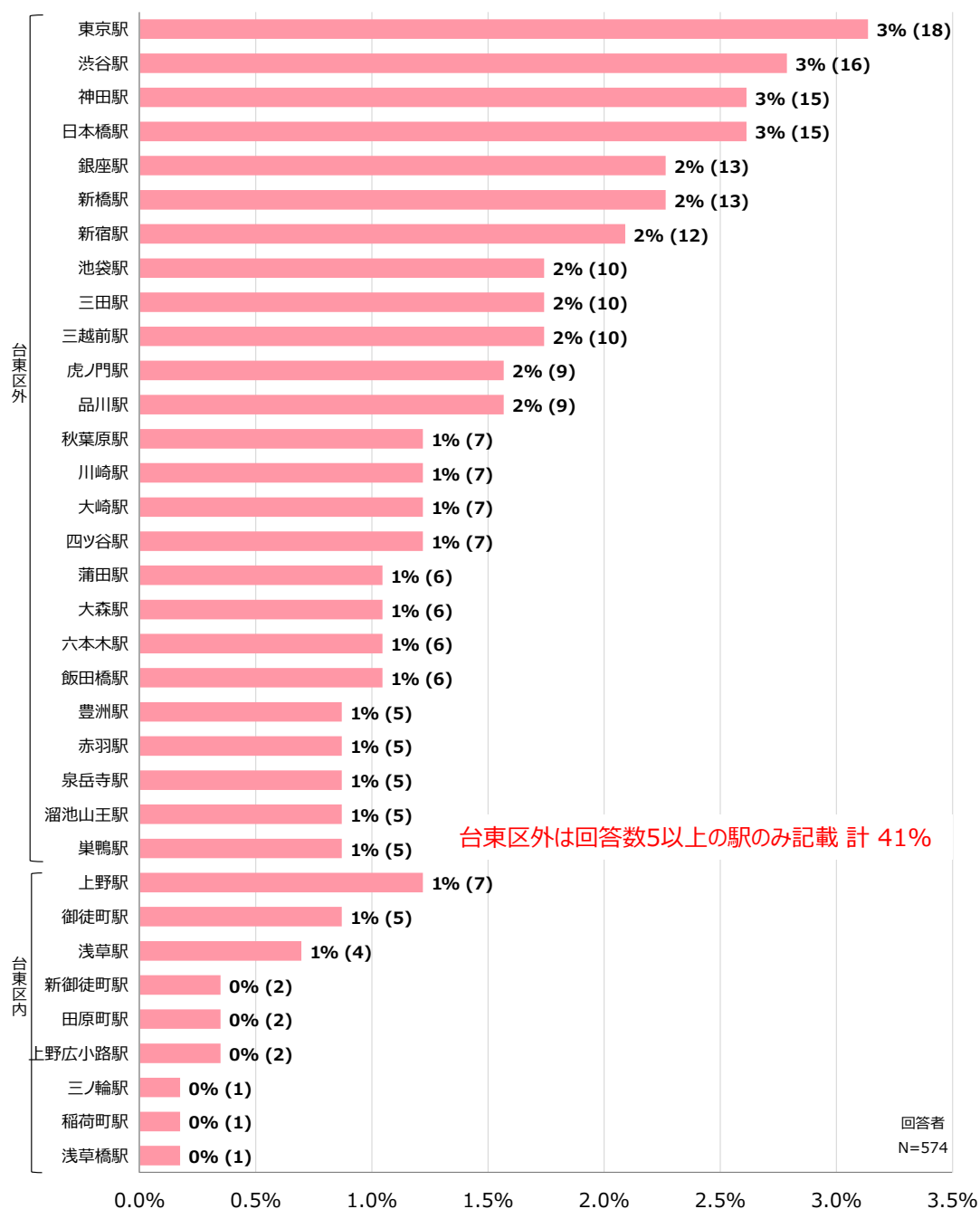


図 4-72 駐輪後に降車した駅＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑫ 駐輪後の駅までの徒歩時間

駐輪場から駅までの徒歩時間は、～1分が最も多く、26%を占めています。
0～5分を合計すると、91%を占めています。

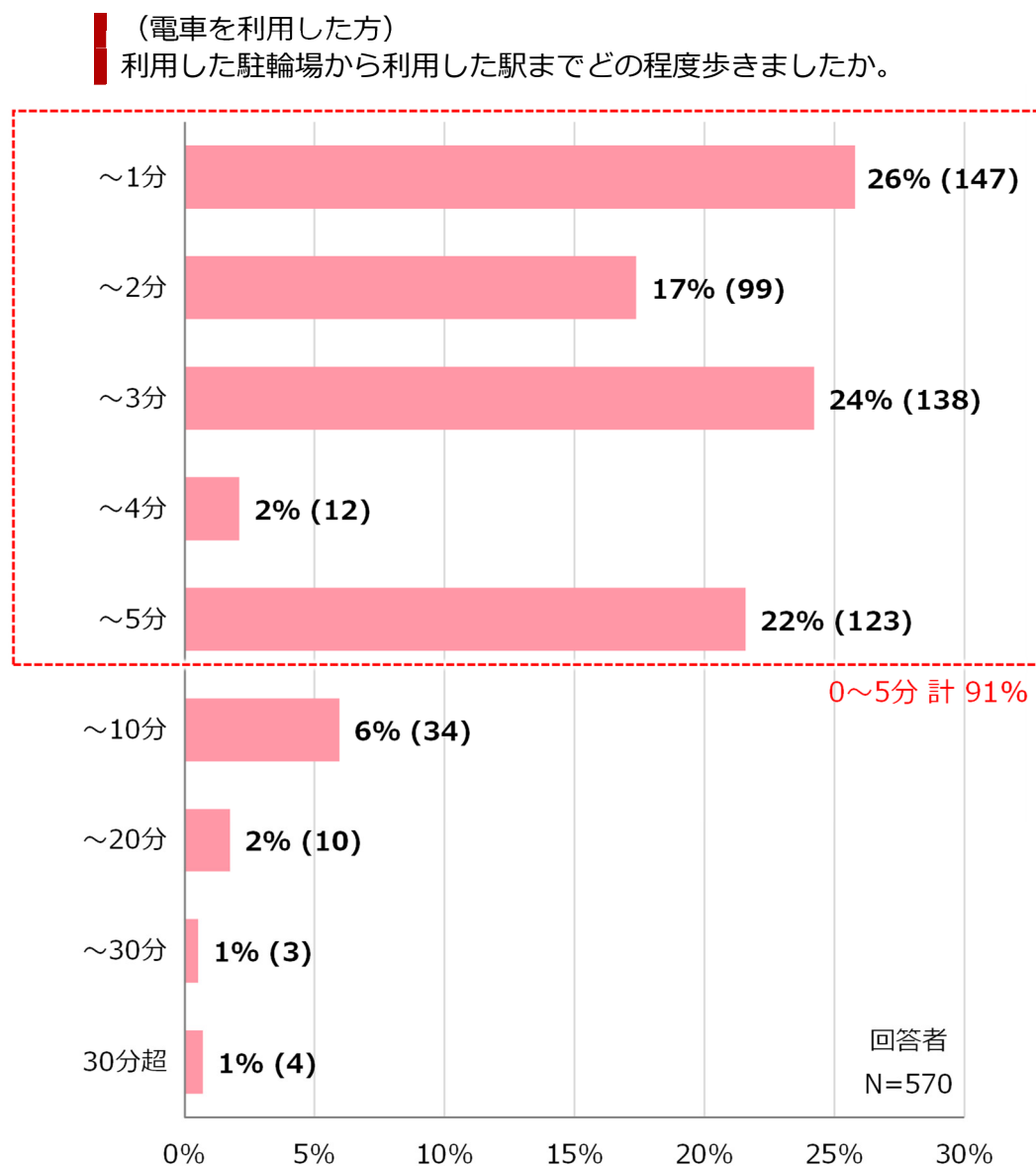


図 4-73 駐輪後の駅までの徒歩時間＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑬ 駐輪場利用時の出発地

駐輪場利用時の出発地は、自宅が85%を占めています。

今回、駐輪場を利用された際の『出発地』を教えてください。
※ 自宅以外の方は、出発地の区をお選びください。

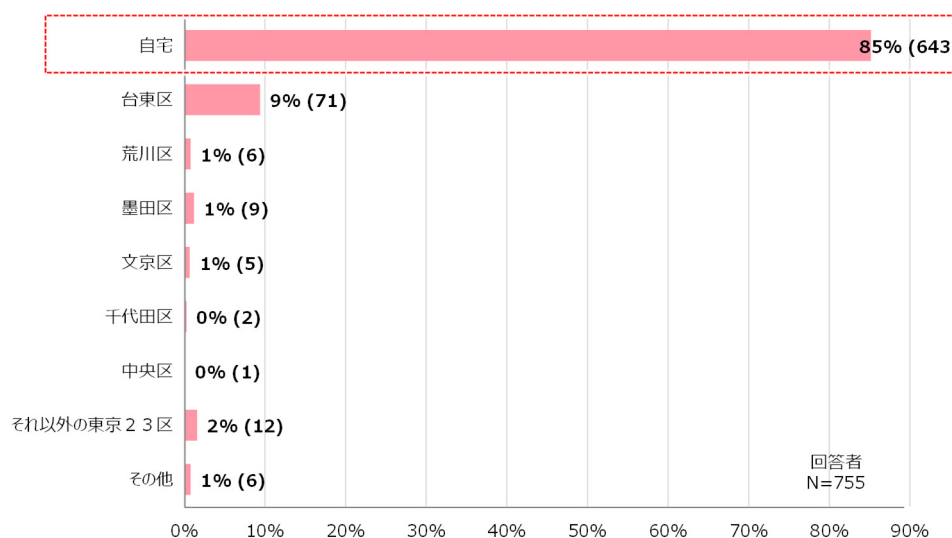


図 4-74 駐輪場利用時の出発地<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

⑭ 駐輪場利用時の最終目的地

駐輪場利用時の最終目的地は、「それ以外の東京23区」を除くと「台東区」が最も多く、19%を占めています。

今回、駐輪場を利用された際の『最終目的地』を教えてください。
※ 自宅以外の方は、最終目的地の区をお選びください。

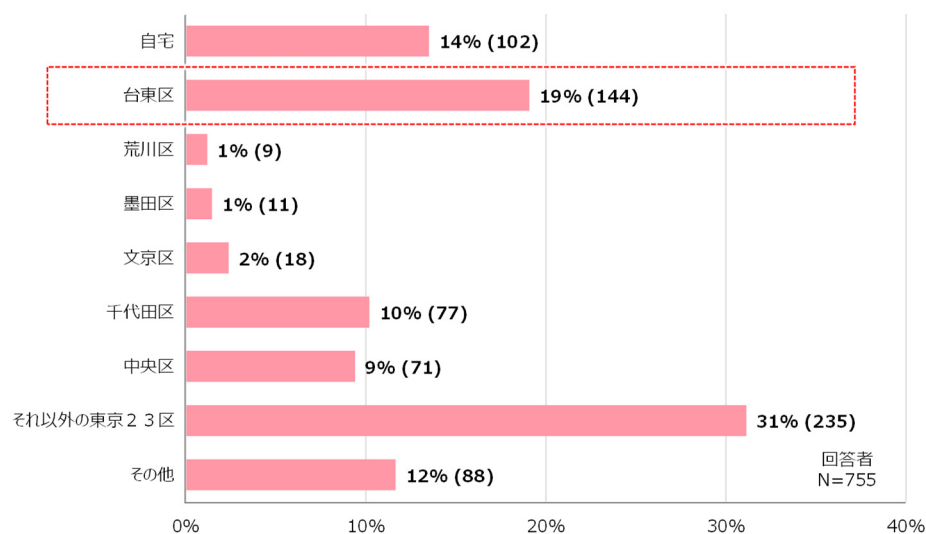


図 4-75 駐輪場利用時の最終目的地<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

3) 駐輪場利用・自転車利用及び利用環境に関する意向

① 駐輪場の選択理由

駐輪場の選択理由は、「駅から最も近いから」が最も多く、69%を占めています。

次に、「料金が安いから」（28%）、「駐輪場に屋根があるから」（25%）が多くを占めています。

■ 今回、利用された駐輪場を選択した理由を教えてください。
（最大3つまで選択が可能です）

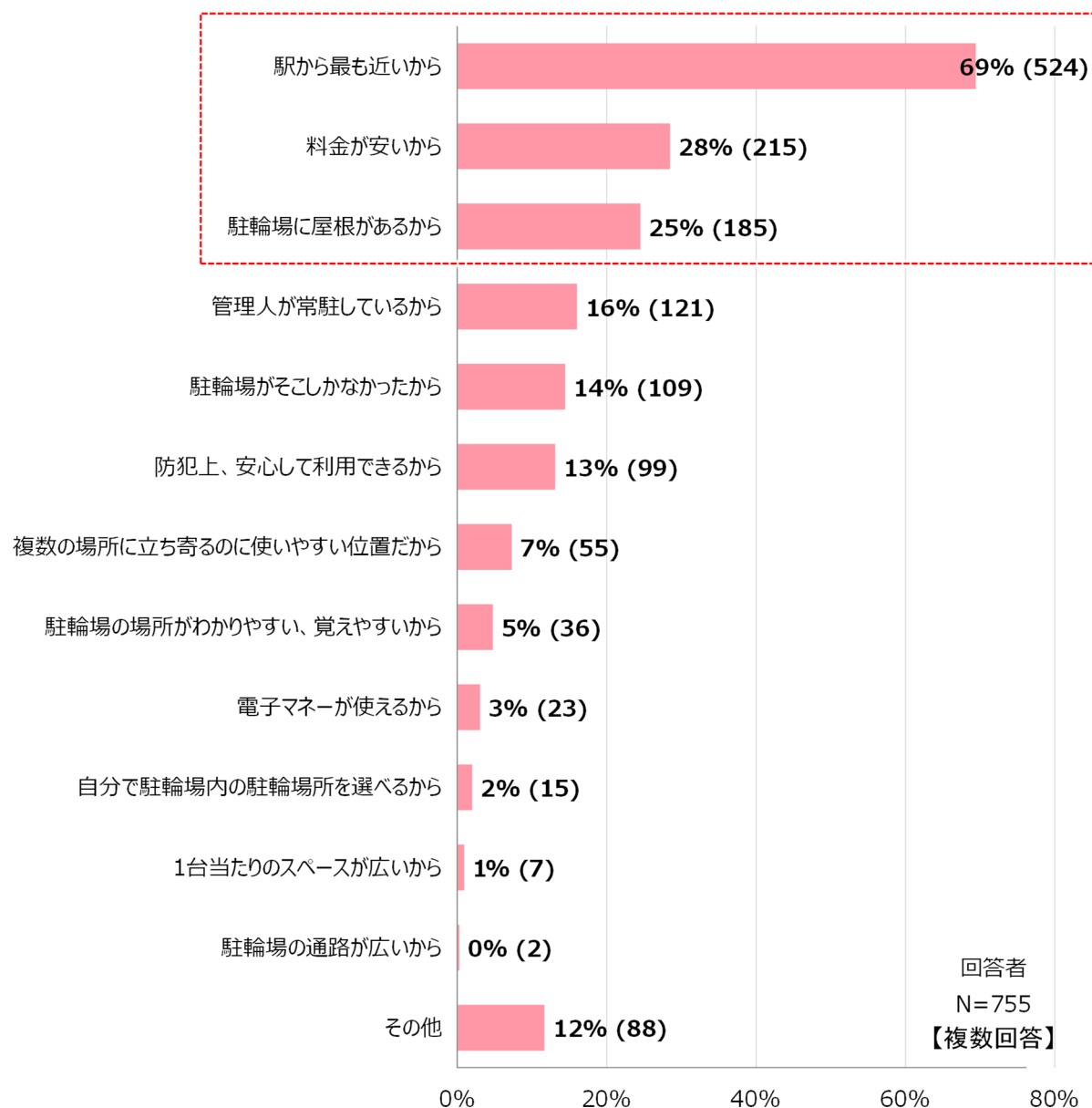


図 4-76 駐輪場の選択理由＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

② 駐輪場の利用満足度

駐輪場の利用満足度は、満足とやや満足がともに最も多く、合計で74%を占めています。

■ 今回、利用された駐輪場の満足度を教えてください。

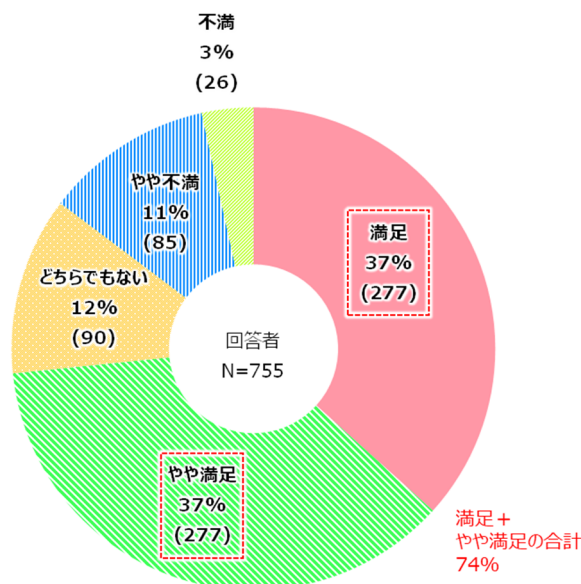


図 4-77 駐輪場の利用満足度＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

③ 駐輪場の改善点

駐輪場の改善点は、「駐輪可能な台数が少ない」が最も多く、20%を占めています。次に、「1台分のスペースが狭く駐輪が困難」（19%）、「駐輪動作の負担が大きい」（14%）が多くを占めています。

■ 今回、利用された駐輪場への改善点があれば教えてください。
（最大3つまで選択が可能です）

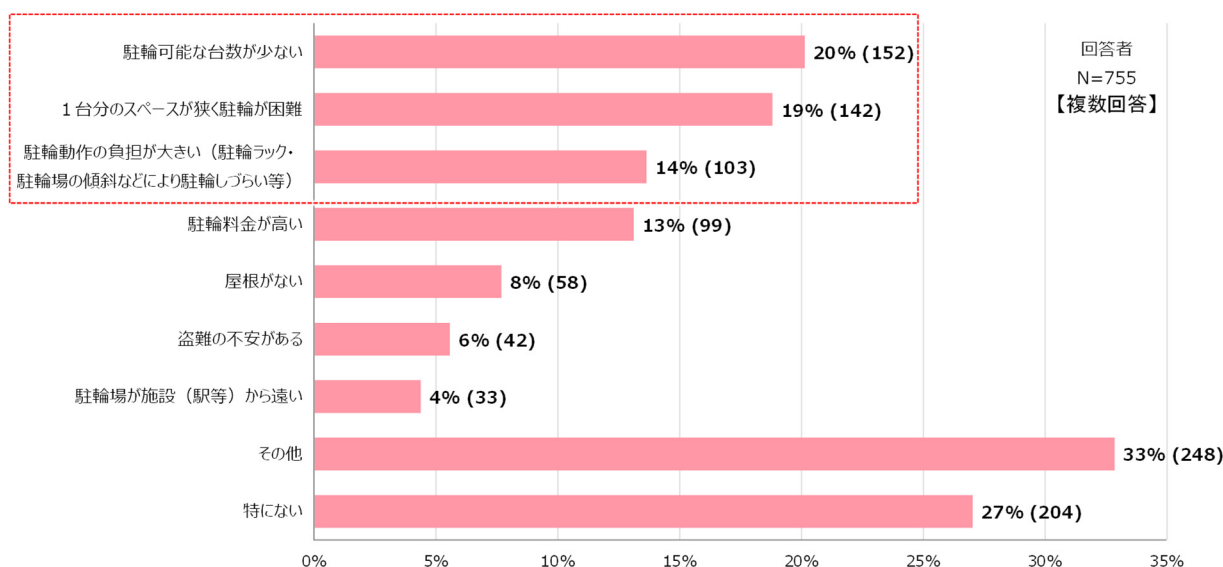


図 4-78 駐輪場の改善点＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

④ 放置駐輪の有無

放置駐輪経験の有無は、「よくある（8%）」・「たまにある（59%）」の人が67%を占めています。

自転車を利用する際に、
駐輪場以外の道路や歩道上に駐輪することはありますか。

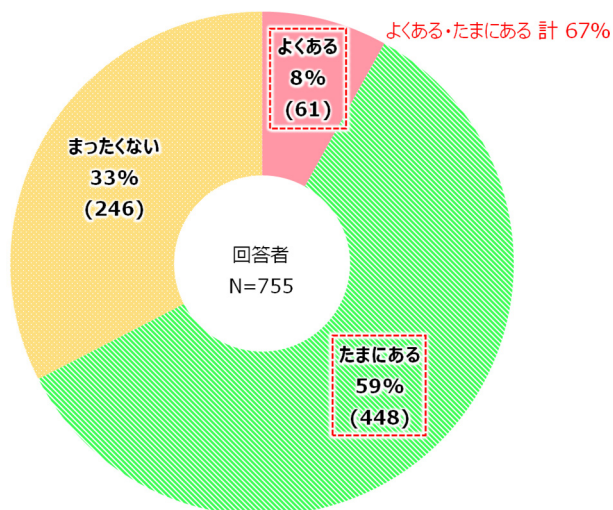


図 4-79 放置駐輪経験の有無＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑤ 放置駐輪の理由

放置駐輪の理由は、「目的地（店舗・施設・駅）から駐輪場が遠い」が最も多く、40%を占めています。次に、「近くの駐輪場を知らない」（28%）、「駐輪場が満車で駐輪できない」（18%）が多くを占めています。

道路や歩道上に駐輪したときの理由について教えてください。
（最大3つまで選択が可能です）

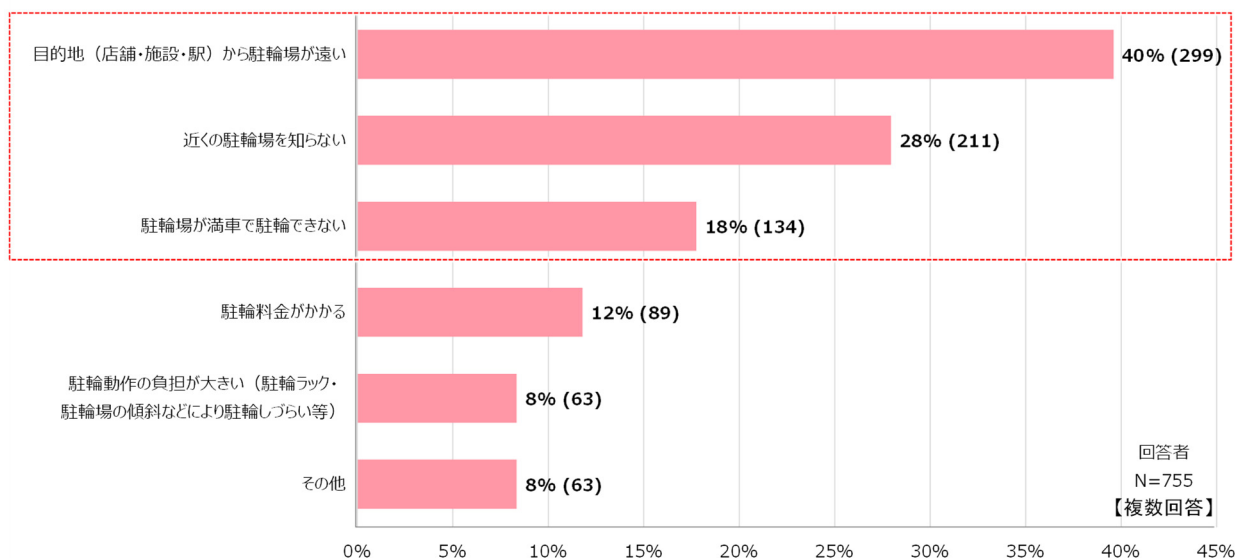


図 4-80 放置駐輪の理由＜区内自転車駐車場利用者アンケート調査＞

⑥ 自転車の利用理由

自転車の利用理由は、「どの交通手段よりも早く目的地に着くから」が最も多く、63%を占めています。次に、「最も安い移動手段だから」(43%)、「他に利用可能な交通手段がないから」(28%)が多くを占めています。

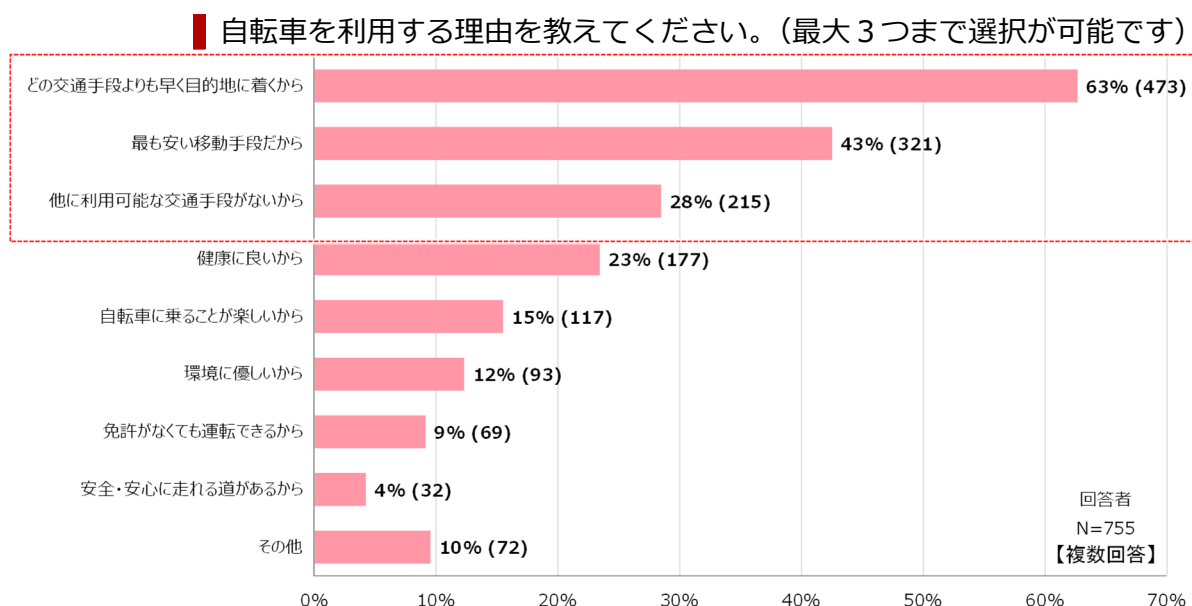


図 4-81 自転車の利用理由<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

⑦ 自転車利用環境ニーズ

自転車利用環境ニーズは、「駐輪スペースの充実」が最も多く、51%を占めています。次に、「安全に通行できる走行空間の整備」(50%)、「新規駐輪場の整備」(41%)が多くを占めています。

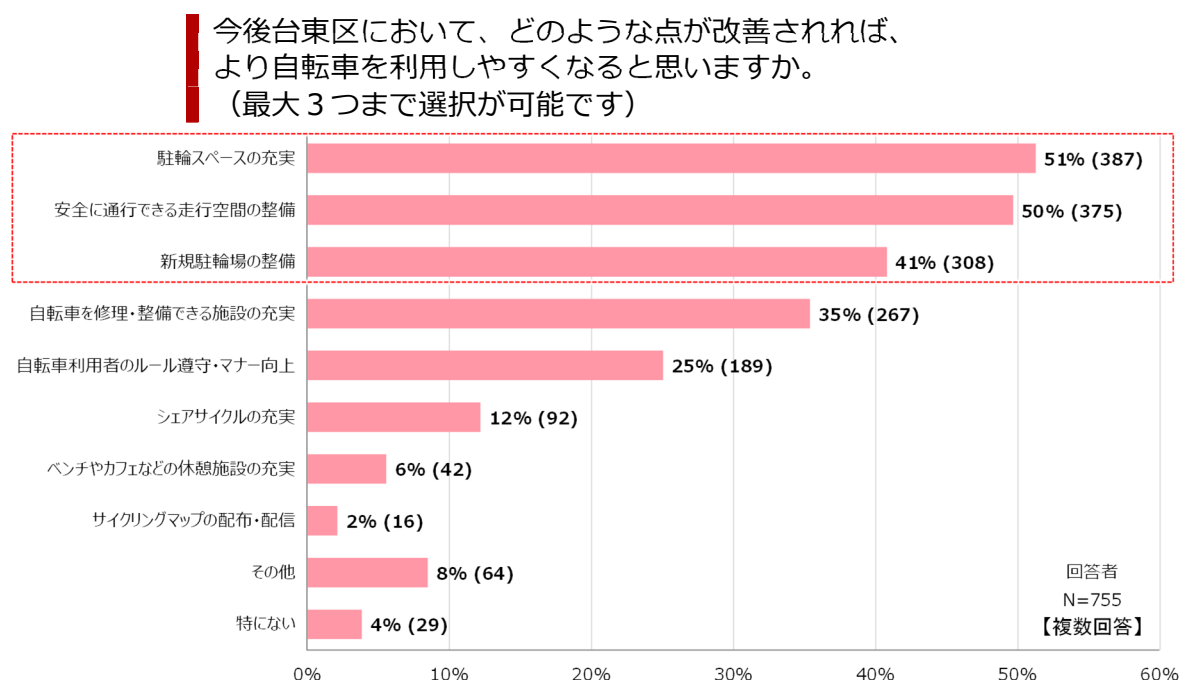


図 4-82 自転車利用環境ニーズ<区内自転車駐車場利用者アンケート調査>

(3) 調査結果のまとめ

区内自転車駐車場利用者アンケート調査の結果をまとめると以下のとおりです。

1) 回答者属性

- 回答者の居住地は台東区が 78%を占め、その 37%が橋場、今戸、浅草の住所である
- 駐輪した自転車の 68%がシティサイクル（ママチャリなど）であり、駐輪した自転車の 30%が電動アシスト付きである

2) 駐輪場の利用実態

- 利用した駐輪場は、隅田公園自転車駐車場が最も多い（26%）
- 駐輪場の利用実態として、駐輪場利用時の出発地は自宅の方が 85%であり、利用のピークは 8 時前となっている(全体の 70%)。また、駐輪場の利用時間は 7 時間以上利用される方が 87%である
- 駐輪場の利用頻度は、週 5 日以上が最も多く（65%）、利用目的は、通勤のためが 77%で最も多い
- 駐輪後は電車移動が多く（76%）、駐輪後に電車を利用した人のうち、浅草駅で乗車した人が最も多い（41%）
- 駐輪場から駅までの徒歩時間は、0～1 分が最も多く 26%を占め、5 分以内を合計すると、91%を占める
- 電車移動に限らず全体では、駐輪場利用時の最終目的地は台東区が最も多い（19%）（「それ以外の東京 23 区」の選択肢を除く）

3) 駐輪場利用に関する意向

- 駐輪場の選択理由は、「駅から最も近いから」が最も多く（69%）、次に「料金が安いから」（28%）、「駐輪場に屋根があるから」（25%）が多い
- 駐輪場の改善点としては、「駐輪可能な台数が少ない」（20%）、「1台分のスペースが狭く駐輪が困難」（19%）、「駐輪動作の負担が大きい」（14%）の回答が多い
- 放置駐輪を「よくある」・「たまにある」と回答した人が67%を占めている
放置駐輪の理由については、「目的地（店舗・施設・駅）から駐輪場が遠い」（40%）、「近くの駐輪場を知らない」（28%）、「駐輪場が満車で駐輪できない」（18%）を理由としている人が多い

4) 自転車利用及び利用環境に関する意向

- 自転車の利用理由は、「どの交通手段よりも早く目的地に着くから」が最も多く（63%）、次に「最も安い移動手段だから」（43%）、「他に利用可能な交通手段がないから」（28%）が多い
- 自転車利用環境ニーズは「駐輪スペースの充実」（51%）、「安全に通行できる走行空間の整備」（50%）、「新規駐輪場の整備」（41%）の回答が多く、駐輪以外のニーズも現れている

4-3 事業者ヒアリング調査

(1) 調査概要

1) 調査の目的

本調査は、区の自転車活用推進に向けた施策検討を行う上で、事業者・団体の視点による取組状況や課題、意向等を把握することを目的として実施しました。

2) 調査の対象

区内で事業・活動をする交通事業者、大規模商業施設、交通安全協会、障害者団体を対象としました。

3) 調査の方法

表 4-7 調査方法(事業者ヒアリング調査)

対象	調査方法	回答方法
事業者・団体	事前に調査票を配布・回収	その後、対面または WEB や電話にてヒアリングを実施

4) 調査期間

令和6年10月から令和6年12月の期間に実施しました。

5) 調査項目

事業者ヒアリングの項目を以下に示します。

表 4-8 調査項目（事業者ヒアリング調査）

調査対象	交通事業者	大規模商業施設	交通安全協会	障害者団体
主な調査項目	・ 鉄道やバスと自転車の連携に対する考え方 ・ 鉄道駅での駐輪場整備に対する考え方 ・ バスドライバー視点での自転車等に対する意見や要望 ・ 区の自転車活用推進計画に期待すること	・ 駐輪場の整備状況や利用状況 ・ 駐輪場の整備・運営・維持管理上の課題、利用者からの要望 ・ 放置自転車に対する考え方 ・ 区の自転車活用推進計画に期待すること	・ 区民の自転車の安全利用の実態 ・ 自転車の交通安全に関する取組状況、課題 ・ 区の自転車活用推進計画に期待すること	・ 障害を有する方視点での自転車に対する安全性 ・ 障害を有する方の自転車利用の現状・ニーズ ・ 区の自転車活用推進計画に期待すること
対象団体数	3 団体	2 団体	4 団体	5 団体

(2) 調査結果

事業者ヒアリング調査にて、区の自転車活用推進計画に期待することとして、下記に関する意見を頂きました。

1) 交通事業者

- 自転車は鉄道利用者の2次交通における1つの交通手段であるため連携が望ましい
- 数年前までバス車内事故（急ブレーキによる乗客の転倒等）の多くが自転車の飛び出しなどに起因するものであった。現在は、ドライバーへの注意喚起（自転車の動きに対する注意）によりほとんど解消している
- 観光客が自転車を利用するニーズがあると思うので、観光地周辺での駐輪場整備が必要ではないか
- 区の自転車活用推進計画に期待することとして、自転車の総量を減らす観点からのシェアモビリティの普及に向けた施策、自転車が車道を安全に通行できる道路環境やルールマナーの啓発等への要望が挙げられている

2) 大規模商業施設

- 施設周辺の放置自転車が問題となっており、道路敷地の自転車は施設側では対処できない状況
- 放置自転車に伴い、ゴミの投棄等、秩序が乱れるため、清掃含めた環境維持が必要となる。また、放置自転車によって本来の駐輪スペースに自転車を駐車できない、あるいは自転車を取り出せないという利用者からのクレームが発生する
- 施設利用以外の目的（通勤、通学等）の駐輪場利用が問題となっている。その他、太いタイヤの自転車等、従来のラックでは駐車できないタイプの自転車への対処が課題
- 区の自転車活用推進計画に期待することとして、放置自転車の撤去の強化、通勤・通学等の目的のための駐輪場の整備・充実等への要望が挙げられている

3) 交通安全協会

- 自転車の通行ルールを守らない人が一定数存在（信号無視や一時停止違反、逆走、歩道でのスピードの出しすぎ等）。また、外国人のルール・マナーが問題
- ヘルメットの着用率は依然として低い
- 各地区の警察署や区民ボランティアと連携しながら、キャンペーン、自転車教室、街頭でのチラシ・グッズ配布、ポスター掲示等の啓発活動を実施
- 安全教育を受ける機会がない人や意識が低い人に対してどのように啓発をするかが課題。また、外国人に対しては外国語対応が課題
- 自転車＝歩行者であった期間が長過ぎたため、自転車＝車両という意識付けが大きな課題
- 区の自転車活用推進計画に期待することとして、自転車が車道を安全に通行できる道路環境の整備や多様な機会での安全教育を受けられる環境づくり等への要望が挙げられている

4) 障害者団体

- 障害の種類を問わず、歩道を通行する自転車や横断歩道を横切る自転車に対して、怖さや危険を感じる
- 視覚障害がある方においては、歩道等に止められた自転車に引っかかるケースがある
- 聴覚障害がある方においては、自転車のベルを鳴らされても気付くことが出来ない
- 障害の種類や程度にもよるが、自転車を日常的に利用している方もいる（自転車は大切な移動手段であるため、規制によって利用できなくなると困るという意見も）
- 三輪自転車のように安定したタイプの自転車に対する利用意向がある。また、利用が難しい場合でも、希望目標を持って取り組むプロセスが「リハビリ」になるという意見
- 区の自転車活用推進計画に期待することとして、誰もが安全に通行できる道路環境の整備、放置自転車対策・駐輪場整備、自転車利用者の通行ルールやマナーの啓発や障害者向けの自転車利用マニュアルや講習会実施への要望が挙げられている

5. 計画策定に向けた課題の整理

5-1 現状のまとめ

以上の調査結果を踏まえ、本区の自転車を取り巻く現状について以下のとおり整理しました。

表 5-1 自転車を取り巻く現状のまとめ(1/2)

太字：自転車活用推進に関わる課題やニーズ

青字：区民・自転車駐車場利用者アンケート、緑字：事業者ヒアリングより

人口特性や 地勢	● 台東区は低地部と台地部で形成され、低地部と台地部の境界には坂道が存在 ● 土地利用では、「住宅」や「商業用地」が区内に広く分布し、職住の共存が特徴 ● 総人口は過去から将来にわたって増加傾向。年齢階層では 30～39 歳が最も多い ● 人口密度は根岸・入谷地域、浅草・中部地域、南部地域にかけて多い（老年人口は根岸・入谷地域及び北部地域、昼間人口は上野地域が多い）
地域の 交通基盤	● 区内は概ね鉄道・バスの重複利用圏域でカバーしているが、北部地域の一部にバス利用圏域のみの区域が存在 ● 自転車通行空間は、区内の幹線道路を中心に整備済み（自転車レーンは広幅員の国道や都道に限られる状況） ● 誰もが安全に通行できる道路環境や自転車通行空間の整備に期待の声
交通特性・ 移動特性	● 国道、都道の計 3 路線で道路の混雑度 1.5 超（区内主要渋滞箇所 7 箇所） ● 代表交通手段分担率は鉄道（53.7%）が最も高く、自転車は 11.2% ● 鉄道端末の交通手段分担率では、徒歩が 95.1%、自転車は 1.5% ● 保有する自転車はシティサイクルが最も多く、27%は自転車を所有していない ● 自転車を利用する理由は、「どの交通手段よりも早く目的地に着くから」（61%）と「最も安い移動手段だから」（40%）が多い ● 自転車の利用環境が良くなれば、自転車を利用しない人の 45%が是非とも利用したい・利用を検討すると回答 ● 自転車利用環境ニーズとしては、「安全に通行できる走行空間の整備」、「駐輪スペースの充実」、「自転車利用者のルール遵守・マナー向上」が高い ● 歩行者視点からの自転車への不満は、「歩道通行時の危険な速度」（48%）、「急な飛び出し」（37%）、「携帯電話を見ながら走行」（34%）が大きい ● ドライバー視点からの自転車への不満は、「急な飛び出し」（32%）、「左側通行をしていない（逆走）」（32%）、「信号を守っていない」（28%）が大きい ● 区内の自転車関連事故は交通事故全体の 47%を占め、近年増加傾向 ● 「ヘルメットの着用」、「原則車道通行」を守っていない割合が高い。自転車保険の未加入・わからないが 46%

表 5-2 自転車を取り巻く現状のまとめ(2/2)

太字：自転車活用推進に関わる課題やニーズ

青字：区民・自転車駐車場利用者アンケート、緑字：事業者ヒアリングより

駐輪特性	● 駐輪場は区内 29 箇所（17 自転車駐車場、1 民間駐輪場、11 自転車置場） ● 自転車駐車場および民間駐輪場の利用率は、施設によって差がある状況 ● 区全体での放置自転車台数は 1,406 台、東京 23 区でワースト 2 位 ● 放置駐輪する人は 7 割程度と多く、放置駐輪の理由としては「目的地（店舗・施設・駅）から駐輪場が遠い」、「近くの駐輪場を知らない」が多い ● 利用者が実際に利用している駐輪場に対する改善点として、「駐輪可能な台数が少ない」、「1 台分のスペースが狭く駐輪が困難」、「駐輪動作の負担が大きい」が多い ● 通勤・通学等の駐輪場の充実、観光地周辺での駐輪場整備に期待の声 ● 放置自転車対策においては、駐輪場整備だけでなくシェアモビリティの活用に期待。また、放置自転車の撤去の強化に期待の声
シェアサイクルの活用状況	● シェアサイクル 3 事業者と協定締結。令和 6 年 12 月末において、ポート数は区内 139 箇所、平成 30 年度末の約 4 倍、ラック台数は約 5 倍、またシェアサイクルの利用回数は約 50 万回で毎年利用が増加 ● シェアサイクルを利用したことのある人は 17%。利用したことはないが今後は利用したいと考えている人は 15% ● シェアサイクルを利用しない理由として、「使い方がわからないから」が最も多く 27%。「手続きに手間がかかる」も 21%と負担に感じている人が多い ● シェアサイクルの改善ニーズとして、「ポート（乗り場）を増やす」（19%）が多い
道路構造・交通規制	● 時間制限駐車区間は、上野地域、浅草・中部地域、南部地域を中心に設置 ● 自転車歩行者道は幹線道路の一部で指定されている状況
施設立地状況	● 区内には、小学校 19 校、中学校 9 校、高等学校 8 校、大学 2 校が立地 ● 保育施設・幼稚園や公園は区内全域に立地し、文化観光施設は上野公園付近に多い。商店街は上野駅・御徒町駅周辺および浅草寺の周辺に多く、大規模小売店舗は上野地域および浅草・中部地域に多い
環境	● 運輸部門の CO₂ 排出量は、令和 3 年度で 10 万 2 千 t-Co₂（構成比 9%） ● 区はゼロカーボンシティを目指し、「自転車の積極的な利用」を表明
観光	● 令和 5 年の観光客数は 3,862 万人であり、令和 4 年から 949 万人の増加 ● 外国人観光客数は令和 5 年が 442 万人であり、回復傾向
健康	● 65 歳健康寿命は、男性が 79.66 歳、女性が 82.09 歳で 23 区ワースト 1 位 ● メタボリックシンドローム該当者・予備群の比率は、23 区ワースト 5 位
周辺自治体の状況	● 周辺区では自転車ネットワークに関する計画が策定済み・策定予定であり、それらとの整合性を図る必要。国道・都道においても、自転車通行空間の整備が推進

5-2 課題のまとめ

以上を踏まえ、当該計画の策定に向けた課題について以下のとおり整理しました。

区が抱える問題

自転車関連事故は
全交通事故の
47%を占め、
さらに**近年増加傾向**

放置自転車台数が、
**23 区内で
ワースト 2 位**

65 歳の健康寿命が、
**23 区内で
男女ともワースト 1 位**

区内の公共交通は
一部地域では
**バスのみでカバーして
いる地域が存在**

① はしる（通行空間）に関する課題

- ・ 自転車通行空間は車道混在が中心だが、区民ニーズとしては「安全に通行できる走行空間の整備」が最も多い。「路上駐車の多さ」「車道の狭さ」「自転車レーン等がない」が不安の上位
- ・ 区民の自転車利用状況を踏まえ、既に整備されている区間の他、自転車の専用空間整備と自転車の更なるネットワーク化を進めるとともに、空間を共有する交通モードへの対策が必要。

② とめる（駐輪環境）に関する課題

- ・ 区内の主要駅周辺には駐輪場が整備されているものの、一部では利用率が低い箇所も存在
- ・ 区民の意識として放置駐輪してしまうと答えた人は 7 割程度であり、「目的地から遠い」等が理由
- ・ 放置自転車対策とともに駐輪環境の整備や利用者の利用意識の啓発が必要。

③ まもる（ルールマナー）に関する課題

- ・ 自転車ルールの認知・順守状況は、知られていない・守られていない事項が多数存在
- ・ 歩行者視点、ドライバー視点からも自転車のルールマナーに対する不満が高い
- ・ 誰もが安全・安心で気持ち良く道路を共有できるよう、多様な利用者へのルールマナーの啓発が必要。

④ つかう（活用）に関する課題

- ・ 自転車を所有していない人が 27%を占める
- ・ シェアサイクル利用は増加傾向にあるものの、「使い方がわからない」から利用しない人が 27%
- ・ ゼロカーボンシティの推進、健康増進や観光振興に向けて、自転車を利用しやすい環境づくりや利用促進が必要。

図 5-1 計画の策定に向けた課題のまとめ